

# 12都道府県委員長会議

## 「850万票、15%以上」を正面に

### 7月末目標の達成へ、4月必ず前進し、5月は出足早く

29日に開かれた12都道府県委員長会議で小池書記局長が行った問題提起と討論のまとめの情報は次の通りです。

#### 小池書記局長の問題提起

小池書記局長は、会議で、**極め経験を交流し、到達点**3月中総決定と3月の常任幹事をまとめて率直な自己検討部会「訴え」にもとづく積を深め、7月末目標の達成



に向けて4月は必ず党勢の前進に転じ、5月は出足早く飛躍したいと述べ、5月末にわたって問題提起を行いました。

#### 情勢の大激動 党が役割発揮

第一は、情勢の大激動と党の積極的役割についてです。安倍政権は政治、経済でも外交でも大破綻に直面していること、その中で党が

大きな力と役割を發揮していることを説明しました。

国政では、隠へい、改ざん、ねつ造、圧力、セクハラ、シヒリアンコントロールの崩壊と、わが国の民主主義を揺るがす異常事態が起こっており、その責任は、すべて政府、与党にあると指摘。もはや、安倍政権に政権運営能力はないと述べ、真相解明と責任追及を通じて内閣総辞職へと追い込んでいく緊迫した局面を迎えていると述べました。

などが合意されたと述べ、党が関係6カ国政府へ要請した方向こそ道理のあることが、事態の推移で鮮明になったと指摘。こうした党の対応の土台には党綱領があり、現実の世界政治で生命力を發揮していると強調しました。

#### 比例目標離さず 支部にまで徹底

第二は、参院選の意義、政治目標をわがものにして、魂を入れ、参院選・統一地方選の躍進をかけるための課題です。

参院選を文字通り正面にすえ、比例代表選挙で「850万票、15%以上」に本気で取り組み、党躍進の大きな流れをつくりだしてこそ、統一地方選挙で躍進を

ことだと、法案の共同提出などをあげて説明。国会での野党共闘と一体に、全国津々浦々で共同を広げ、市民の運動、国民の世論とたたかいによって、安倍政権打倒へ追い込んでいこうと訴えました。

続いてこの間の中間選挙での前進は特筆すべきものだと指摘。4月の定例選挙では137人が当選し、前回比で4議席増、改選比で6議席増、補欠選挙では4議席を獲得したと紹介(22日現在)。京都府知事選では40年来で最高の44%を獲得、首長選で滋賀・近江八幡市、千葉・市川市などで自民推薦候補を打ち破り、市民と野党の候補が勝利していること述べました。

かちどくがでるべきと力説。まず地方選挙で参院選は次の課題という「段階論」や、参院比例目標とは別に地方選挙の目標を持つ「二重目標」も新たに克服しようと呼びました。

参院選では、「国民・公明」の補充勢力を少数に追い込むことをめざします。「このまま中絶決定をあらためて強調し、少数に追い込む力力は、野党共闘の勝利と共産党の躍進だと述べ、党が、宣伝・組織活動でも、中間選挙でも、党建設でも、躍進の流れをつくりだすことが、本気の野党共闘をつくりだすうえで決定的な力となることを明らかにしました。

そのために、各都道府県で決めた参院比例目標を本気でやりぬく構えを支部に至るまで確立し、あらゆる活動で「比例を軸に」を貫くことを訴えました。比例目標実現は選挙区での勝利への土台ともなり、統一地方選挙の勝利のためにも比例目標を土台に党躍進の波を起すことが不可欠だと強調しました。

### 党勢拡大目標の達成に執念持ち

第三は、党員拡大を根幹

とする党勢拡大についてで

党勢拡大、とりわけ根幹である党員拡大は、「比例を軸に」が貫かれているかどうかの試金石だと強調。参院選、統一地方選で躍進・勝利していくうえで、7月未までの前回参院選時回復は、なにがなんでも絶対的にやりぬかなければならぬ目標であり、二つの支部でみれば、党員1人増、日刊紙読者1人増、日曜版読者1人増で、決して大きくなく、全体で取り組めば、十分に実現可能な目標だと述べました。

飛躍をつくるために、「赤旗」連載「これならできる支部の『集い』」あなただけの支部で新しい党員を「もたれ、支部が対象者を出し合い働きかける実践を強めよう、読者拡大では、政治情勢と党の役割、紙面の魅力を語り、広い層へ働きかけることを重視しようと呼びかけました。

### 世代的継承へ 民青倍加に力を

第四は、世代的継承について、特に学生新歓の教訓を学び、民青倍加へ党あげ

た取り組みです。

学生新歓では数々のドラマが生まれていると全国の例を紹介。民青の「三つの魅力」がいよいよ輝いていると述べ、この魅力を広く伝えていく活動を、若者といっしょに、党をあげて取り組もうと呼びかけました。

## 揺るぎなく参院比例 目標を軸にすえる

### 小池書記局長のまとめ

討論のまとめを行った小池書記局長は冒頭、会議で議論になった参院選の比例目標と統一地方選挙の得票目標という二つの目標をもっともいのかという問題について、参院比例目標「850万、15%以上」をあらゆる党活動の軸にすることを提起した。中絶決定をふまえ、次のように述べました。

「850万、15%以上」は、県、地区、支部、あらゆる活動の軸になる目標です。そういう点を、二つの目標はあり得ないこと

### 候補者決定急ぎ 指導体制を確立

第五は、統一地方選挙の候補者決定と党機関の指導体制についてです。統一地方選挙の候補者について、それぞれの県ごとに期日を決め、一刻も早く決定できるよう全力をつくす。

そうと訴えました。支部を指導する体制を強化するために、自治体ごとに補助指導機関、個別選対を強化し、支部への厚い援助体制を確立し、参院選、統一地方選をたたかう県・地区の選挙体制も急いで確立していくことを呼びかけました。

を明確にしたいと思えます。来年は、統一地方選挙があり、その3カ月後に参院選があります。もし地方選挙で党が低い目標でたかうことになれば、他党派から徹底的に切り込まれてしまつことになりかねません。攻め込まれた上で国政選挙に臨むことになれば、大失敗することになりかねません。この問題は来年の選挙戦にむけた構えのなかでも、その根幹にかかわる重大問題としてうけとめる必要があります。

この問題で、いささかの揺るぎもあってはなりません。もちろん情勢判断のなかで、地方選挙の安定的な当選のための得票ラインは検討になるかもしれませんが、それは目標ではありません。目標は、あくまでも比例代表の目標で一本化するということを徹底する必要があります。

今年1年で、本当に比例代表の目標達成という大きな流れをつくれるのかどうかで選挙の成否は決まります。揺るがず、比例代表の得票目標の実現と、そのための躍進の流れを今年中につくりだす。7月未までの

目標もやりきつていくことができて党が団結することとをあらためて確認したいと思えます。

続いて小池氏は、討論が五つの問題提起にかみ合ったものになったと振り返り、安倍強権政治に対して市民と野党の共闘の発展に貢献している党の役割や、北朝鮮問題での的確な対応の土台にある党綱領の立場に確信をもつことが重要だと述べました。

党員拡大を根幹とする党勢拡大についても、地区が支部に出かけ、寄り添い、行動を具体化して「集い」を開くなど、支部に灯をともす活動を広げることが強調。民青を増やす今後の取り組みとして、新同盟員の定着と持続的拡大、高校・職場での民青の拡大をあげました。

最後に小池氏は、4月残る期間で党員でも「赤旗」読者でも前進し、12都道府県の党組織が大きな変化を起し、5月のスタートダッシュで成果をあげるためにも頑張りますと訴えました。